

縄文の衣

喜びを伝える風と時間の祝祭

パフォーマンス

光を浴び 風を受け 縄文の衣が舞う
そのときそこは
宇宙に変わる

2017.

9.16

16:30開演

茅野市立永明小学校 体育館

茅野の歴史と、そこに生きる人々の願いと想いを、
一枚の布の可能性に託して綴る、
いま
現在を生きる人々による未来への讃歌。

構成・演出 時広真吾 (衣装デザイナー)



時広真吾の構成・演出により、「縄文アートプロジェクト」(2015年・茅野市民館)において「縄文のうた」の踊りを手掛けた小笠原大輔、市民創作劇「となりの縄文人」にて女神の舞を披露した永田桃子、茅野で踊りの楽しさを広めている木元梨枝によるダンスを交え、公募による市民出演者と、衣装制作の市民サポーターがともにパフォーマンスを創作し、上演します。



山口県生まれ。ジャーナリストからスタイリストへ、1991年にモーツァルトのオペラ「魔笛」より、舞台衣装デザイン開始。独自のスタイルで創造された衣装たちは「風が纏う衣装」「挑発する衣装」「格闘する衣装」、「文学的抒情」など様々な名前が、一流アーティストや演出家から与えられている。衣装展およびワークショップはアジア5か国(韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム)を始めとして、国内でも各地で開催されている。シェイクスピアの衣装でヨーロッパ5か国のシェイクスピアフェスティバルから招聘される。西島数博演出・振付「ドラマティック古事記」や横内正主演「リア王」ほか、各地での地元市民による新しい「祭り」のプロジェクトを依頼されるなど、衣装デザイナーの域を超え多方面で活躍している。これまで、東儀秀樹、松井誠、真矢みき、安寿ミラ、宮川博、荻野日慶子や太鼓芸能集団「鼓童」、東京ノーヴィ、レパトリーシアターなどに衣装提供。プロ集団によって構成する「四つ花の会」、2010年より各地の地元のアーティストたちがコラボする「美の種」プロジェクト等を各地でプロデュース。海外ではオールラウンド・アーティストと称され、デザイナー、写真家、詩人、パフォーマーをこなす。作品集もこれまで8冊上梓している。

岡谷市出身。多重
構造からくりコント
&ダンスグループ
“撫肩GUYDANCE”

(ナデガタ ガイダンス)主宰。幼少期より面白い研究に没頭し、学生時代にやむを得ずコンテンポラリーダンスを始め、頓智の利いた独自のお笑いダンス(=トンチンポラリー・ダンス)を確立する。神奈川県内の高校創作舞踊部を指導し、全国大会等で文部科学大臣賞を含む多くの上位受賞に導いている。最近で